

PWE (Paddy and Water Environment) 誌の現状と展望 Status quo and perspectives of the PWE (Paddy and Water Environment) Journal

増本隆夫*
MASUMOTO Takao*

1. はじめに

これまで、一流英文誌の発刊、インパクトファクター(IF)の取得、モンスーンアジアの水田農業研究の世界への情報発信を目指し、PWE(Paddy and Water Environment)は農業農村工学会が支える国際誌として一定の評価と位置付けを得てきた。この結果は、財政の基盤となる購読会員や編集に携わった多くの研究者、PAWEESや本部学会の事務局の支援のお陰ともいえるが、昨年はIF (Impact Factor)が1.0を切る結果となり、関係者が改めて危機感を持ち始めた一年となった。

ここでは、昨年7月に編集体制を新たにすることを受けて、例年のようにPWEの現状とその変化を踏まえ、今後を展望してみたい。

2. PWE 掲載論文の現状

PWEは日本・韓国・台湾が中心になって2003年に発刊したこともあり、当初は3ヵ国からの投稿が中心であったが、受理論文をみると、3ヵ国の中で中心となっていた日本の論文に加え、次第に韓国や台湾の論文数が増大し、さらに近年は中国やインドを含めたアジア諸国全体に広がりつつある。一方で、欧州や北米からの論文数は一定の本数(10%以下)に留まるにもかかわらず、論文のダウンロード数等は両地域が大きな割合を占めてきており(2015年訪問数で約25%)、PWEが目標としてきたモンスーンアジア水田農業の世界への情報発信の目標はある程度達成されてきている。全世界の国際誌からのPWE論文の引用数をみると第1著者がアジア以外のもの50%近くになっていることから、同様な注目度になっているといえる。年間の論文ダウンロード数は、最近では3万件(2016年:5.2万回)を越えてきている。

2016年のPWEへの総投稿数は186本であり、多くの投稿数が維持されている中で、同年に査読結果がでた本数は199編、その中で、Acceptが56編(28%)でRejectが143編(72%)と受理に至るには厳しい数字が維持されている。一方、初回投稿から平均294日でAccept判定がでており、Rejectの判定は初回投稿から平均で139日もかかっている。

IFについては毎年7月頃に公表され、PWEは初年度(2012年)0.986の値を取り、以降1.247、1.151と比較的高い値を獲得していたが、一昨年からは低下傾向になり、2015年には0.871と大きな

Table 1 PWEへの投稿状況
Submission status of the papers in PWE

Submissions	2011	2012	2013	2014	2015	2016
Total Submitted	114	88	196	180	173	186
Total Decisions	90	72	198	148	159	199
Accept	59	44	62	58	44	56
Reject	31	28	136	90	115	143
Acceptance Rate	66%	61%	31%	39%	28%	28%
Rejection Rate	34%	39%	69%	61%	72%	72%
Average Days to Final Disposition Accept	166	192	289	203	308	294
Average Days to Final Disposition Reject	88	154	59	84	116	139

* 農研機構農村工学部門 Institute for Rural Engineering, NARO (NIRE)
キーワード:PWE、インパクトファクター(IF)、編集体制、特集号

Table 2 PWE 論文の査読に取りかかる日数
Average time for inviting reviewers (days)

Activity	Days (Average)					
	2011	2012	2013	2014	2015	2016
Submission to Editor Assignment Average number of days between the date the manuscript was received and the first Editor was assigned	2.3	3.0	0.8	0.7	0.7	1.3
Submission to Reviewer Invitation Average number of days between the date the manuscripts was received and the first Reviewer was invited	22.8	49.6	22.7	46.5	69.1	26.7

低下となった(**Fig.1**)。IF の数値では農学系では概ね中間位の位置におり、当該誌が水田を主対象として、アジアが投稿者や閲覧者(ダウンロードは 65%がアジア太平洋地域)の中心という状況から大健闘との評価がある一方で、関係者は IF 値の下げに幾ばくかの危機感を持つに至った。

3. PWE 編集体制の変更と幾つかの課題解決の試み

昨年に PWE の問題点を解決すべく幾つかの変更を行った。①編集体制の変更(2016年7月):当初、Editor-in-Chief(1)、Chief Managing Editor(1、補佐 1)、Managing Editors(4)、Editors(18)の4段体制であったが、Managing Editorの役割が曖昧で(査読システムの設定問題も含む)、現状では3段での対応でCMEに過大な負担がかかっていた。まず、日本人の編集委員が全て交代するとともに、MEを各国1名ずつ増員(日本3、韓国2、台湾1の6名)、Editorの日本人増員(3から4)を行った。また、CME(現在、台湾 Lin 教授)へ集中していた、投稿論文担当のEditor選びや掲載決定までの論文トラック、発行号の印刷ゲラの最終確認等を、複数のManaging Editorで分担することにした。さらに、編集委員会の開催による(日本人のみで学会大会時、EiCと3カ国代表CMEとの打合せ3回)、密な情報交換を行うことを目指した。その結果、**Table 2**にみられるように、投稿から査読者への依頼までの日数が2016年には若干ではあるが短縮される結果となった。②特集号の企画:IFの低下防止のために特別号(過去に8号の内スポンサー号は2号分)の機会の提供を行うとし、2016年(15(3)号)にRice Ecosystem Services特集号を企画)。③印刷物のオンライン配信(前執行部の成果):従来の印刷数(500部)を50部に縮小し、論文掲載本数を増大させた。結果として、2017年の15巻は4号発行、特集号も含め80論文の印刷を予定している。④PWE論文情報の学会誌への掲載:14巻4号からの掲載論文の内容を「国際ジャーナルPWE内容紹介」として農業農村工学会誌に記事化している。⑤組織対応とEditorial Advisorsの創設:農研機構、JIRCAS、寒地土研、IWMI等が組織として編集をバックアップする方法を幾らか整え、編集体制中のEditing Board(当時29名)をEAと改称して、この役割の変更(例えば、世界世界の著名研究者を登録し、PWE誌の外部評判の向上とEditorsが査読者を捜したい際に相談相手になる役割)の試みを始めた。

4. おわりに

新たな体制の日本人 Managing Editor や Editors 諸氏のお陰で、PWE の編集も活気がでてきたように感じている。一方で、上述の改善方策に加えて、著名な研究者へのレビュー論文の投稿依頼、相互の引用促進等、地道な努力が IF の低下防止には重要かもしれない。昨年の抱負は、年間 IF の 1.0 を死守したいとの目標であったが、すでに 0.871 に低下した IF の減少傾向をまず平行にして、少しでも増加傾向にしていきたいと考えている昨今である。

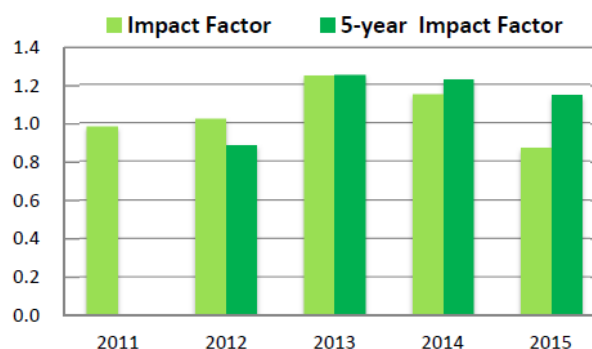


Fig.1 IF の推移
Change of IF of PWE